

表 23 坂越（坂越湾周辺）地区 年表

時 代	年 代	で き ご と
古墳時代中後期 古 代	5～7世紀	みかんのへた山古墳群、鍋島古墳、生島古墳、小島古墳群が築かれる 秦河勝、坂越の生島への漂着伝承 赤穂郡坂越郷と呼ばれていた（「播磨国赤穂郡坂越神戸両郷解」） 古文獻に「坂越庄」がはじめて登場する（「平安遺文」） 赤穂大領高屋越前前二郎為常（1107年没）が常楽院を建立（「妙見寺沙門隆快記録」） 下高谷遺跡で11～12世紀の建物跡 坂越庄が藤原教長に預けられる 坂越庄の間男が淀（大坂）の渡舟を設営する 以後、1484年までは摂関領であった記録がのこる（「御法興院雜事要録」） 太神二十四座に「大勢太神」（「播磨国総社縁起」） 「坂越地頭飽間八郎泰継」の存在（東寺百合文書「矢野庄買得文書案文」） 坂越常楽庵、禪宗寺院常楽寺となる 児島高德、坂越にて没の伝承 世阿弥が『風姿花伝』を記す（秦河勝の漂着記事） 妙見寺が赤松下野守性忠より大般若経の寄進をうける 中庄、坂越の船が兵庫北関を通過（兵庫北関入船納帳） 妙道寺開基 ルイス・フロイス、坂越に寄港し堺行きの船に乗船 宇喜多忠家、坂越・高野・中村・尾崎を地方知行か 細川幽斎、坂越にて「塩は唯よき程なれや 鍋のは しゃくしを中へ入れてみつれば」と詠む
	中 世	養和元(1181)年 正和3(1314)年 正中元(1324)年 正平20(1365)年 15世紀初頭 嘉吉元(1441)年 文安2(1445)年 天文元(1532)年 永禄7(1564)年 天正15(1587)年
	近 世	慶長5(1600)年 元和元(1615)年 元和4(1618)年 元和5(1619)年 寛永16(1639)年 正保2(1645)年 元禄4(1691)年 元禄8(1695)年 宝永3(1706)年 享保6(1721)年 享保9(1724)年 享保11(1726)年 天明8(1788)年 天保2(1831)年 天保9(1838)年 明治10(1877)年 明治16(1883)年 明治22(1889)年 明治30(1897)年
近 代		池田輝政が播磨一国を領有 鱈座が結成される 稲垣焼亡（坂越浦全焼）記事（「妙道寺来由記」「播磨鑑」「播州赤穂郡志」） 漁労のため6名が長崎の大浦に移住 与七郎が一族16戸を引き連れ伊予国青島に移住 網子あわせて23名が長門国油谷に移住 坂越浦の戸数422軒、人口2,121人、大型廻船31艘 坂越・尾崎村間で山論起こる 坂越村明細帳 鳥井町地蔵堂が火葬場に建立される（明治25年に現在地に移転） 坂越にオランダ船入港 大避神社の祭礼における船渡御の最古記録 司馬江漢が坂越浦に立ち寄る 旧坂越浦会所が完成 「難風の節は百石以上の廻船百四、五十艘よく繫留申候」（「諸色書上帳」） 坂越村に魚市場の開設許可される 大阪・坂越間に定期航路が開設される（1918年まで） 市制・町村制により坂越村の成立 奥藤銀行が創設される 坂越港から赤穂縦通が移出される 92間の木橋（旧坂越橋）架設される 奥藤家、赤八商店を創設、塩問屋の経営も始める 木村製薬所が坂越村ハケ谷に設立される 赤穂電灯株式会社設立される、赤穂・坂越間に電話線が新設される 船岡園が整備される 坂越橋が竣工 生島樹林、国の天然記念物に指定される 坂越村海岸道路（西之町一大泊）が新設される 坂越村役場を大改造し「越浦公会堂」とする 宝珠山に八十八ヶ所石仏が建立される 大日本紡績が設立される 港地先海面埋立て工事完了 坂越村に簡易上水道できる 坂越町制が施行 坂越町内の寺院の梵鐘、金属供出のため搬出される 坂越に米軍機10機襲来して油送船を座礁させ、坂越国民学校に機銃掃射 鳥井、上高谷境より千種川堤防までの道路が新設される 御崎～坂越の海岸、瀬戸内海国立公園に指定される 赤穂町、高雄村と合併し、赤穂市となる 御崎～坂越間の観光道路が完成 新坂越橋が完成 生島が瀬戸内海国立公園の特別保護区となる 播磨灘初の牡蠣の養殖が開始される 大泊の金鉱山の操業開始（1984年まで） 昭和35年の台風16号を受け10年かけて2mの防潮堤完成 八祖山バイパス（トンネル）開通 生島樹林のモウソウチク伐採開始 坂越地区が赤穂市景観形成地区に指定される 旧坂越浦会所復元修理完了、公開開始 大黒の埋立地に坂越漁協の牡蠣処理場が竣工 奥藤銀行を改修して坂越まち並み館を整備 国土交通省の都市景観100選に選定される 生島樹林の本格的な植生調査を開始、翌年にムベ伐採 坂越駅周辺地区の区画整理事業開始 平成7(1995)年から開始の坂越港ふさと海岸整備完了 「坂越の船祭」が国指定重要無形民俗文化財となる 坂越大橋完成
	現 代	昭和10(1935)年 昭和11(1936)年 昭和17(1942)年 昭和20(1945)年 昭和22(1947)年 昭和25(1950)年 昭和26(1951)年 昭和29(1954)年 昭和30(1955)年 昭和32(1957)年 昭和47(1972)年 昭和50(1975)年 昭和51(1976)年 昭和57(1982)年 昭和63(1988)年 平成4(1992)年 平成6(1994)年 平成7(1995)年 平成9(1997)年 平成13(2001)年 平成17(2005)年 平成18(2006)年 平成24(2012)年 平成28(2016)年